

8 課題及び課題解決のアプローチ

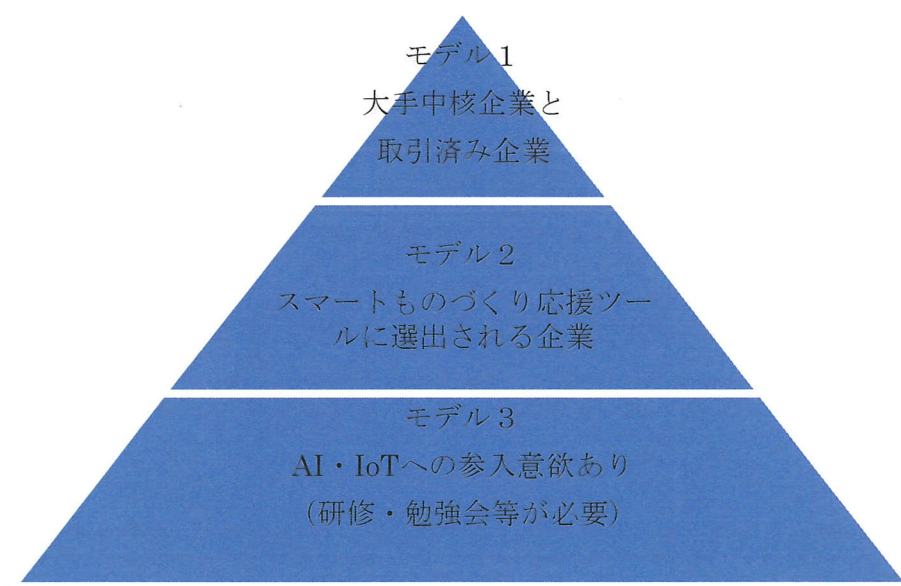
ここでは県内 ICT 企業の育成、取引機会の創出にあたり、課題となっている部分を抽出するとともに、課題解決のアプローチを検討していく。

ただ、すでに AI・IoT 分野において相応の実績を残している先とこれから同分野に参入する企業では抱えている課題も異なる。

次章の具体的な対応策にも繋がる部分があるため、県内 ICT 企業を 3 つのモデルに分けて検討に入ることとする。

なお、県内 ICT 企業をピラミッド化したものが図表 8-1 である。

図表 8-1 県内 ICT 企業の立ち位置



8-1 モデル 1 大手中核企業等との取引で実績を得ている県内 ICT 企業

このモデルに該当する県内 ICT 企業は大手中核企業等の取引を積極的に進める必要がある。このような企業が積極的に取引するにあたり、最大の課題となっているのは、ユーザー側の意識改革となっている。ユーザー側にも、AI・IoT を生かす方法が分かる人材育成が必要との声がある。

また、人材の確保が課題となっているケースがあり、対応できる案件が限られてしまうことが多い。

8-2 モデル2 スマートものづくり応援ツールに選出される県内 ICT 企業

ロボット革命イニシアティブ協議会では、中堅・中小製造業が簡単に、低コストで使える IoT ツールを募集し、定期的に選定している。選定された商品は「スマートものづくり応援ツール」に認定される。このツールに選定されることで、中堅・中小製造業への販路が広がる可能性が高い。

大手中核企業等との取引実績ができるまでには相応の時間を要することが予想されるだけに、「スマートものづくり応援ツール」に選定される県内 ICT 企業を創出することが必要である。

このゾーンで課題となるのは、ユーザー側がどのような課題を持ち解決しようと思っているかを把握することである。AI・IoT 分野に参入を検討している企業の多くはユーザー側のニーズが分からないと回答している。どの分野に経営資源を集中されたいのか、経営資源を投入するまでの費用・その結果に不安を抱える。

8-3 モデル3 AI・IoT 分野に参入意欲がある県内 ICT 企業

AI・IoT 分野に参入したいという意欲はあるが、同分野に対する知識が不足しているゾーンである。ソフトウェア受託開発の知識は持っているが、ハードウェアへの理解がなく、この知識不足が参入障壁になっているケースが多い。

また、中堅・中小企業に対する AI・IoT 分野への提案力に欠ける企業が多いのが実情であり、この部分の課題解決が必要となる。

9 具体的な対応策

9-1 個社への集中支援

図表9-1に個社への集中支援候補企業をリスト化した。大手中核企業等と対等な関係を構築しているまたは今後できる可能性が高く、個別に集中支援を実施することが望ましいと考える先である。

個別の集中支援には、大手中核企業への橋渡しと金銭的な側面がある。

図表9-1 集中支援候補企業リスト

| 商号 | AI | IoT | 分野 |
|----|----|-----|-------|
| Z社 | ○ | × | 事務 |
| Y社 | ○ | ○ | 農林水産 |
| X社 | × | ○ | 農林水産 |
| W社 | ○ | ○ | 製造 |
| V社 | × | ○ | 製造 |
| U社 | ○ | ○ | 製造、建設 |
| T社 | ○ | ○ | 医療・介護 |
| S社 | ○ | ○ | 医療・介護 |
| R社 | × | ○ | 医療・介護 |
| Q社 | × | ○ | 情報通信 |

9-2 情報共有

大手中核企業等から把握したニーズをこの企業群に情報共有することで、宮城県と県内ICT企業が一体となって課題解決を行っていることをPRできる効果を得ることができると。

今回事業では実施することはできなかったが、大手中核企業等へのヒアリング調査で以下のような事例を収集できている。

受け皿となってもらえるのはここに挙げたような企業群または協議会経由が望ましい。いずれにしても、ユーザーサイドの相談窓口を開設することの必要性は今回の大手中核企業へのヒアリング調査においても判明していることである。

9-3 県内 ICT 企業に対する勉強会の開催

コー・ワークスによる県内 ICT 企業（主にモデル2、3対象）向けのセミナー・勉強会を実施することでスキルアップを図りたいと考えていた。しかし、今回の事業では新型コロナウイルスによる影響でイベント自粛から開催することができなかった。

コー・ワークスを選定した理由は2つある。1つはロボット革命イニシアティブ協議会がIoTを普及させるため、中小企業向けの推薦製品を選定している「スマートものづくり応援ツール」に宮城県で唯一選出されている点。もう1つは、県内 ICT 企業のスキルアップやIoT分野における事例創出を真剣に考えている点である（IoT推進ラボ）。

このような意欲的な県内企業が宮城県の当斯業界を先導していくことで総体的なスキルアップに繋がるものとする。

9-4 ユーザーを対象としたAI・IoT活用セミナーの開催

実際にAI・IoT分野に参入している県内 ICT 企業から、ユーザー側の教育も必要ではないかとの声が挙がっている。一方で、大手中核企業（ユーザー側）からも社内でAI・IoTに対応できる人材がいない、活用事例を教えて欲しいなどの声が挙がっている。

双方の意見が一致している部分があり、大手中核企業（ユーザー）を対象としたAI・IoTの活用セミナーを開催することで導入事例が増えていくと考える。

9-5 県内 ICT 企業と大手中核企業等とのマッチング

県内 ICT 企業と大手中核企業等とのマッチングが必要と考える。広い意味では合同商談会（県内 ICT 企業、大手中核企業・事業所ともに希望している先が多数あり）が最適である。

狭い意味では個別企業同士のマッチングとなる。今回調査で判明した中で、マッチング可能と考える先を図表 9-2 に取りまとめた。

また、実証フィールドを提供しても良いと回答した企業を図表 9-3 にまとめた。

図表 9-2 マッチングリスト

| ユーザー名 | 分野 | マッチング候補先 1 | マッチング候補先 2 |
|-------|----|------------|------------|
| A社 | 製造 | I社 | J社 |
| B社 | 製造 | K社 | J社 |
| C社 | 製造 | J社 | |
| D社 | 製造 | L社 | J社 |
| E社 | 物流 | K社 | |
| F社 | 福祉 | I社 | M社 |
| G社 | 福祉 | I社 | |
| H社 | 福祉 | I社 | M社 |

図表 9-3 実証フィールド提供可能先

| ユーザー名 | 分野 | 実証フィールド提供 |
|-------|----|-----------|
| N社 | 製造 | ○ |
| O社 | 福祉 | ○ |

10 分析内容説明会実施報告

10-1 実施概要

成果報告書の利用者に対して本業務における分析内容及び成果報告書の利用に当たっ
ての留意事項等について説明するとともに、RESAS を活用した研修を目的とする。

募集方法

県（経済商工観光部富県宮城推進室政策推進班）より庁内及び関係機関に開催通知を
配布し、募集を行った。

開催日時・場所

開催日：2020年3月17日（火） 10：00～15：00

会場：J C21 教育センター 研修室

対象者

出席者：11名

10-2 実施報告

2020年3月17日(火)宮城県職員に対し、2部制で研修会を開催した。1部は「AI・IoT等調査の実施報告」、2部は「RESASの基礎的な講義、実践」の構成とし、(株)東京商工リサーチ東北支社が担当した。

1部では、報告書の抜粋をもとにAI・IoT分野における市場性や今後の施策提案などの内容を説明した。

2部では、RESASを実際に操作しながら、様々なメニューに慣れてもらうような構成にて進めた。

11:30からチームごとに分かれ、RESAS等を活用したワークショップを実施した。宮城県の農業・製造業などでAI・IoTを導入することという政策目的が掲げられた際に、その根拠(エビデンス)を示すRESASのデータを活用しながら班ごとに分析を行ってもらった。

各チームで纏めた分析結果を発表してもらい、分析内容説明会を終了した。



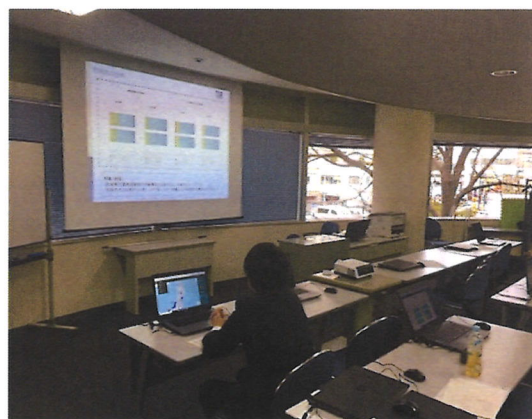
第1部 講義



会場風景



チームによる作業



チームごとの分析発表